



令和4年4月26日(火) 雨 No. 25



▲会長挨拶



▲次年度会長挨拶



▲例会の様子

会長の時間

会長 藤本 光一

さて、今週金曜日からはゴールデンウィークです。

新型コロナの影響もまだまだ収まりそうにないようですが、昨年と比べれば新幹線や飛行機を利用される方、帰省や旅行をされる方が大幅に増える予想です。

今年は昨年にくらべて新型コロナの感染者の数は大幅に増えてはいます。

昨年の第5波の緊急事態宣言がでていながら、兵庫県の1日あたりの感染者のピークが約1,100人弱という状況でしたが、今年はワクチン接種の効果もあってか、去年とは違い、『旅行に行ってもいいよね』という雰囲気になっていること、また『緊急事態宣言』、『まん延防止等重点措置』といった人の流れを抑制する施策が出されていないのが大きな要因で、また医療機関の状況等も相当落ち着いてきているようです。兵庫県の斎藤知事は「今の感染状況を踏まえれば過度な行動自粛をかける状況ではない。大型連休はレジャーの時期なので、基本的な感染対策をしっかりとって、旅行やレジャーを楽しんでいただきたい」ということです。

ただ、このゴールデンウィークで多くの方が活発に移動するということで、そのあとの急激な感染の拡大については注意が必要だということだと思います。

先程から「ゴールデンウィーク」という言葉を頻繁に使っておりますが、この呼び名の由来ですが、名付け親は映画会社「大映」の専務取締役である故・松山英夫氏だとされています。今から約70年前の1951年のいわゆるゴールデンウィーク時期に公開した映画が、お正月映画やお盆の映画並にヒットし、興行成績が大変良い期間という意味で「ゴールデンウィーク」というように呼ばれるようになったのがきっかけだといわれています。

最初は映画業界の用語で、それが次第に他の業界にも広がっていったようです。

しかし、実はNHK や一部の民放、一部の新聞などでは、「ゴールデンウィーク」という言葉をできるだけ使わず「大型連休」という表現で統一しているようです。

これはどうして・・・？

もともと映画業界用語だったという説があることから、映画業界の宣伝になってしまうことや、年配の方には分かりづらいこと、休めない人から「何がゴールデンだ！」といった抗議が来るなどという理由で、「大型連休」という表現で統一しているのだそうです。

さて、本日は次年度委員会パート2ということで、各次年度委員長様、ご苦労様です。また、毎年のことですが、このゴールデンウィークの入り口の29日には次年度の会長・幹事・各委員長を対象にした地区研修・協議会が開催されます。昨年はコロナウイルスの影響でオンライン開催となってしまいましたが、今年は対面形式で行われるようです。それでは次年度委員会パート2、短い時間かと思いますが、よろしくお願いいたします。

幹事報告

- 1) ☆他クラブニュース
例会変更のお知らせ
明石 RC ◇4月27日(水)→休会[定款第7条第1節(d)補足1項]
◇5月 4日(水)→休会(祝日)
◇5月25日、6月29日(水)→休会[定款第7条第1節(d)]
- 2) 次週5月3日(火)は祝日のため例会はありません。
事務局ゴールデンウィーク中のお休みについてご連絡します。
4月29日(金)～5月5日(木)【5月2日は有給】
休み中の緊急連絡は畑幹事までお願いします。
- 3) 5月よりクールビズ暫定期間とさせていただきます。
- 4) 本日例会終了後、加古川商工会議所4階特別会議室に於いて5月度の理事会を開催します。

定例理事会

《審議事項》

- 1) 6月プログラムに関する件
原案通り承認。
- 2) 最終例会に関する件
原案通り承認。
- 3) 浅井康作氏(株式会社みなと銀行)推薦に関する件
推薦手続きを進めることで承認。
- 4) 江畑達也氏(株式会社三井住友銀行)推薦に関する件
推薦手続きを進めることで承認。
- 5) 藤堂博美会員退会に関する件
2022年4月30日をもって退会する事で承認。

ニコニコ



- | | | | |
|---|---|---|--|
| 省 | 略 | ☺ | 小野加東 RC、辻本様、ようこそ加古川 RC へ。
ごゆっくりお過ごし下さい。 |
| 省 | 略 | ☺ | 本日は次年度委員会パート2です。各委員長、よろしくお願いいたします。 |
| 省 | 略 | ☺ | 小野加東 RC 辻本さま、ようこそ加古川 RC へ。 |
| 省 | 略 | ☺ | 本日は次年度委員会パート2。宜しく申し上げます。 |
| 省 | 略 | ☺ | アロン・マスクがツイッターを買収。5.6兆円。驚きです。 |
| 省 | 略 | ☺ | 次年度委員会 Part II、よろしくお願いいたします。 |

- 省 略 ☺ 辻本さん、ようこそ加古川 RC へ。
協会以外でお会い出来て刺激になります。
- 省 略 ☺ テーブルの花いただきます。

以上8件 ¥10,000-
本年度累計¥1,233,000-

出席委員会

- ☆ 今 週 会員数 70 名 出席 31 名 出席免除 19 名 欠席 20 名
☆ 欠 席 者 省略
- ☆ 前 々 週 会員数 70 名 出席 39 名 出席免除 17 名 欠席 14 名
☆ ビ ジ タ ー 小野加東 RC 辻本 和哉氏

親睦活動委員会

例会場当番

- 5月10日(火) 大辻、安井
5月17日(火) 河合、竹位



プログラム委員会

本日4月26日(火)	5月3日(火)	5月10日(火)	5月17日(火)
次年度委員会Ⅱ	休会 (祝日)	卓話 「わたしのしごと」 穴田担当	フォーラム・ゲスト卓話 青少年奉仕委員会 担当

5月のおよろこび

- ◆ 誕 生 日 祝 省略
- ◆ 結 婚 記 念 日 祝
- ◆ 出 席 表 彰
- ◆ 会 社 創 立 記 念 日

ウクライナに医療物資を届けるために大陸を越えてロータリークラブが結束

医療物資をいっぱい積んだ2機の貨物輸送機がシカゴを出発。これらの物資は、現地の会員の協力を通じてウクライナ各地へと届けられます。

ロシアの軍事行為によるウクライナでの人道的危機が続く中、北米、アルゼンチン、ヨーロッパのロータリー会員が、米国のウクライナ人医師会との協力や自らのネットワークを駆使し、医療物資 100トン超を収集しました。

止血帯、止血ガーゼ、血圧計など、集まった大量の医療物資は、2機の貨物輸送機でシカゴからヨーロッパに運ばれました。現地で最も必要とされる物資を特定するために、ロータリー一会員が病院と毎日連絡を取り合っています。

国際ロータリー理事エレクトであるパット・メリーウェザー-アルジェスさん(ネーパービル・ロータリークラブ[米国]会員)は、「ロータリーは、ネットワークを築き、人びとを結束させ、物事を成し遂げることに長けている」と話します。

必需品リストにある物資や機器を購入するため、北米とアルゼンチンのロータリークラブがリソースを寄せ集め、製薬会社や医療機器製造業者の知り合いを通じて物資を集めています。シカゴ近郊の病院が救急車 1 台を寄贈したほか、米国メイン州の会員は「C アーム」と呼ばれる、爆弾金属片による負傷者のための可動式 X 線装置 1 台を確保しました。

こうした物資は、**北米ウクライナ医師会 (UMANA)** が運営する倉庫に次々と集まっています。数百マイル離れた他州のロータリークラブからも、大型トラック数台分の物資が、シカゴのオヘア国際空港近くにあるこの倉庫に運ばれています。

倉庫内では、UMANA とロータリーのボランティアが、発送前の物資の整理と仕分け、梱包を行っています。発送費は数名から寄せられた寄付で賄われます。

「ロータリアンがほかのロータリアンに声をかければ、素晴らしいことが成し遂げられる」と話すのは、マーガ・ヒューコさん(シカゴ・ロータリークラブ会長)です。

マーガさんの夫である国際ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長兼 CEO は、ウクライナ系米国人で、キーウ・ロータリークラブの創立会員です。ヒューコ夫妻は、1990 年代に 5 年間、ウクライナに住んでいました。

今年はじめ、マーガさんとシカゴ・ロータリークラブは、ウクライナの都市リヴィウのがん患者のための幹細胞保存施設の設立に向けて、シカゴとウクライナの医師たちと協力していました。この保存施設は、細胞を長期間保存し、より複雑な研究を支援することが目的でした。

戦争の勃発により、この活動の焦点は人道的支援へと切り替わりました。

「シカゴのウクライナ人コミュニティに連絡を取り、どう支援できるかを尋ねました。また、ウクライナ人医師たちとのつながりを通じて UMANA について知りました」とマーガさん。

1950 年に創設された UMANA は、会議や北米・ウクライナ間の医師の交流を通じて教育を促進しています。戦争勃発後、UMANA のボランティアがウクライナへの医療物資の発送や、医師と製薬会社とのネットワークを通じた医療物資・機器の収集を開始。ほどなくして、このプロジェクトにロータリークラブも加わりました。

アルゼンチン出身のマーガさんは、母国の知り合いを通じてアルゼンチンのクラブからの協力を募りました。これらのクラブの会員も、それぞれの人脈を通じて資金や医療機器を集めています。

UMANA の倉庫を見学したマーガさんとメリーウェザー-アンジェスさんらは、このプロジェクトの効率の高さと規模の大きさに感心しています。

「ただ素晴らしいとしか言いようがありません」とメリーウェザー-アンジェスさん。「UMANA との協力を選んだのは、シカゴのウクライナ人コミュニティとの強いつながりがあるからです。これまでにパレット約 400 個分の物資の仕分けと梱包を行いました」

引き続き、ウクライナ国内の会員が医療必需品リストを作成しています。外科医であるオルハ・パライチェックさん(チェルカースィ・ロータリークラブ会員、トルコ・ウクライナ国際共同委員会のメンバー)は、每晚病院に電話をかけて必要物資を確認しています。

病院への配達の手配は、チェルカースィに住むパライチェックさんのほか、リヴィウやオデーサに住む会員が行っています。

ウクライナ国内外の会員によるこうした行動は、ロータリーのネットワークがもつ力を物語るものだと、マーガさんは言います。

「戦争のただ中で、しかもロシア軍が病院を標的とすることもある中で、ウクライナ国内のロータリーボランティアたちが国中に物資を届けているという事実は、“超私の奉仕”以外の何ものでもありません」